高崎市文化財調査報告書第 415 集

上大類薬師遺跡2

― 切土工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 ―

2018

高崎市教育委員会
有限会社毛野考古学研究所

高崎市文化財調査報告書第415集

上大類薬師遺跡2

― 切土工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 ―

2018

高崎市教育委員会
有限会社毛野考古学研究所

例　言

1．本書は、切土工事に伴う上大類薬師遺跡２の埋蔵文化財調査報告書である。
2．本遺跡は、群馬県高崎市上大類町字薬師 1285 －２に所在している。
3．本発掘調査および報告書の作成は、長井寅一氏・高崎市教育委員会・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
4．発掘調査から報告書作成・刊行に至る経費は、開発原因者である長井寅一氏に負担していただいた。
5．発掘調査・報告書の作成は、高崎市教育委員会の指導・監督のもと日沖剛史（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
6．発掘調査における平面・断面測量は田村貴広（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
7．発掘調査・報告書の作成は、平成 29 年 10 月 16 日～平成 30 年 5 月 31 日の期間で実施した。
8．本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で「712」である。
9．本書の執筆についてはⅠを高崎市教育委員会、それ以外を日沖剛史が担当した。
10．本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。
11．発掘調査・報告書作成に携わった方々は以下の通りである。

【発掘調査】

田村貴広　勅使川原幸枝　萩原秀子

【報告書作成】

井口ヒロ子　池内麻美　石原理久子　小野澤絹子　荏戸玲子　深谷道子　真下弘美

12．発掘調査から報告書の刊行に至る過程で下記の機関・諸氏のご協力を賜った。記して感謝申し上げます。
（順不同・敬称略）

大和ハウス工業株式会社群馬支社　伊藤明宏　カネコハウス

凡　例

1．挿図中の北方位は座標北、断面水準線数値は海抜標高を示す。座標は世界測地系を用いている。
2．遺構図および遺物実測図の縮尺については、図中にスケールを付してある。また、遺物写真は遺物実測図と同様の縮尺である。
3．土器の色調観察は『新版　標準土色帖』（農林水産技術会議事務局　財団法人日本色彩研究所監修 2006）を用いた。
4．遺物番号は、実測図・観察表・写真図版とも共通である。
5．本書掲載の第１図は高崎市発行１/2,500『高崎市都市計画基本図』、第２図は国土地理院発行１/25,000『前橋』・『下室田』を一部改変引用した。
6．本書ではテフラ（火山噴出物）の呼称として次の略号を用いる。

Ａｓ－Ａ：浅間Ａ軽石（天明３年：1783 年）　Ａｓ－Ｂ：浅間Ｂ軽石（天仁元年：1108 年）
Ｈｒ－ＦＡ：榛名－二ッ岳渋川テフラ（６世紀初頭）　Ａｓ－Ｃ：浅間Ｃ軽石（３世紀末降下）

目　次

例言　凡例　目次
Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　地理的・歴史的環境 …… 2
Ⅲ　調査の方法と経過 …… 3
　1　調査の方法 …… 3
　2　調査の経過概要 …… 3
Ⅳ　基本層序 …… 4
Ⅴ　遺構と遺物 …… 4
　1　1面目 …… 4
　2　2面目 …… 6
　3　3面目 …… 7
　4　遺構外出土遺物 …… 14
Ⅵ　まとめ …… 15
抄録　写真図版　奥付

図版目次

第1図　調査区位置図 …… 1
第2図　遺跡の位置 …… 2
第3図　基本層序 …… 4
第4図　1面目全体図・SD－1・畠跡断面図 …… 5
第5図　SD－1断面図（土層説明） …… 6
第6図　3面目全体図①（SI－1平面図） …… 7
第7図　SI－1断面図・出土遺物実測図 …… 8
第8図　3面目全体図②（SI－1～4・SK－1・2・P－1平・断面図） …… 9
第9図　3面目全体図③（SI－1～4掘り方・SK－3・4） …… 10
第10図　SI－2出土遺物実測図① …… 10
第11図　SI－2出土遺物実測図② …… 11
第12図　SI－3出土遺物実測図 …… 11
第13図　SK－1出土遺物実測図 …… 12
第14図　SK－2出土遺物実測図 …… 13
第15図　SK－3出土遺物実測図 …… 13
第16図　P－1平・断面図・出土遺物実測図 …… 14
第17図　遺構外出土遺物実測図 …… 15

表目次

第1表　周辺遺跡一覧表 …… 3
第2表　SI－1出土遺物観察表 …… 8
第3表　SI－2出土遺物観察表 …… 11
第4表　SI－3出土遺物観察表 …… 12
第5表　SK－1出土遺物観察表 …… 12
第6表　SK－2出土遺物観察表 …… 13
第7表　SK－3出土遺物観察表 …… 13
第8表　P－1出土遺物観察表 …… 14
第9表　遺構外出土遺物観察表 …… 15

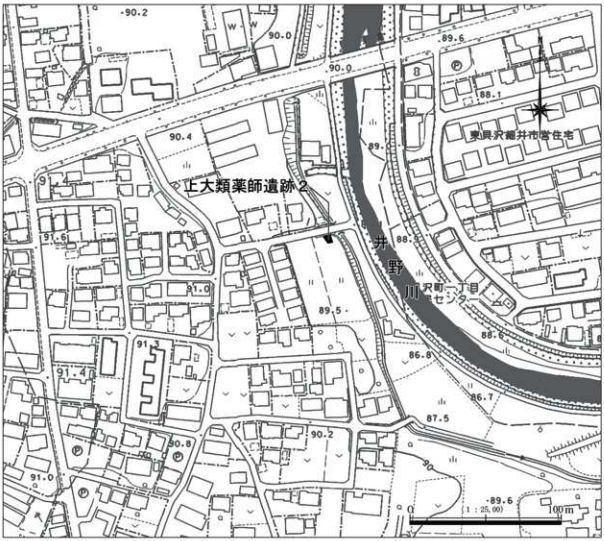
写真図版目次

PL．1
1面目全景
3面目全景
PL．2
3面目掘り方全景
SI－1全景
SI－1P1遺物出土状況
SI－1・4掘り方全景
SI－2全景
PL．3
SI－2貯蔵穴遺物出土状況
SI－2掘り方全景
SI－3全景
SI－3掘り方全景
SI－4全景
SK－3全景
P－1遺物出土状況
標準堆積土層
PL．4
出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯（第１図）

平成28年６月、土地所有者長井寅一氏から、高崎市上大類町において計画している共同住宅建設に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である上大類薬師遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年６月28日には、市教委へ埋蔵文化財（確認）調査依頼書が提出され、同年７月13日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、上大類薬師遺跡と同様な遺構が検出され、古墳時代から平安時代の集落跡の広がりが確認された。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、道路部分で切土が発生するため現状保存は困難との結論に達し、切土部分の発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお、遺跡名については「上大類薬師遺跡２」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成29年９月29日に土地所有者長井寅一氏と民間調査機関有限会社毛野考古学研究所との間で契約を締結、また同日に土地所有者長井寅一氏・有限会社毛野考古学研究所・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。



第１図　調査区位置図

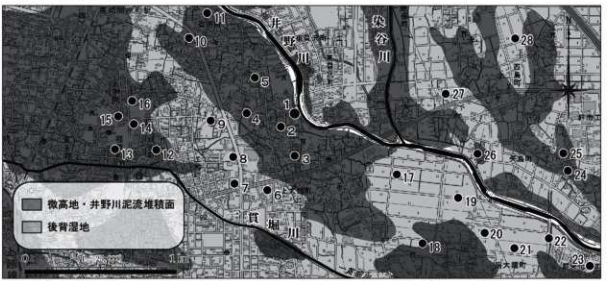
Ⅱ　地理的・歴史的環境（第２図 / 第１表）

上大類薬師遺跡２は井野川泥流堆積面に立地している。井野川泥流堆積面は、井野川両岸に形成された自然堤防状の地形で、井野川が相馬ヶ原扇状地扇端部（高崎市大八木付近）から烏川へ合流するまでの間に形成されたものである。なお、形成時期は概ね10,000年～11,000年前とされている。井野川泥流堆積面の外郭には完新世に形成された後背湿地が広がり、市街化が進む今日においても水田耕作が継続して行われる風景も見られる。さらに、この後背湿地の外側には更新世に形成された微高地と後背湿地が控えており、微高地上には集落形成、後背湿地上では水田耕作が古くから行われている。

本遺跡（１）は先述したとおり、井野川泥流堆積面に立地しており、古墳時代前期～平安時代の集落および平安時代の畠跡が確認されているほか、弥生時代後期の土器が採取されている。なお、同じ地形区分に立地する遺跡としては、弥生時代後期の土器が出土している上大類薬師遺跡（２）、弥生時代後期の住居跡・弥生時代後期～古墳時代前期の方形周溝墓・古墳時代中期末～後期の住居跡・平安時代の溝が確認されている上大類北宅地遺跡（３）、Ａｓ－Ｃ（３世紀末降下）降下以前の方形周溝墓・古墳時代中期末～後期初頭に比定される墳輪棺・平安時代の住居跡が確認された貝沢柳町遺跡（４）、５世紀末～６世紀初頭に帰属するとされる聖天山古墳（５）、銅鏡が出土した五霊神社古墳（10）、石製模造品を扱う祭祀と想定される貝沢Ⅰ遺跡（11）などの遺跡が挙げられ、弥生時代後期から集落や墓域として機能し始めていることが解る。

一方、井野川泥流堆積面の外側に控える後背湿地では、Ａｓ－Ｂ（天仁元年：1108年降下）下水田の検出が主体的に確認でき、上大類野地田遺跡（６）・上大類坂サ堰遺跡（７）・上大類八反田遺跡（８）・貝沢萩塚遺跡（９）などの遺跡がある。特筆すべき点として上大類野地田遺跡（６）においてＡｓ－Ｂ下水田の下位から水路および堰の存在が指摘されており、当該地域における水田開発がさらに遡る可能性を暗示させるものと言えよう。

更新世に地形の形成がなされた地域では、日光町林製作所遺跡（14）・稲荷町Ⅰ遺跡（15）などで弥生時代中期の住居跡が確認されており、本遺跡周辺よりも若干早くから集落形成に適した土地として認識されていたのかもしれない。



１．上大類薬師遺跡２　２．上大類薬師遺跡　３．上大類北宅地遺跡　４．貝沢柳町遺跡　５．聖天山古墳　６．上大類野地田遺跡　７．上大類坂サ堰遺跡　８．上大類八反田遺跡　９．貝沢萩原　10．五霊神社古墳　11．貝沢Ⅰ遺跡　12．日光町遺跡　13．稲荷町Ⅱ遺跡　14．日光町林製作所　15．稲荷町Ⅰ遺跡　16．貝沢天神遺跡　17．天田・川押遺跡　18．銀大類町村西遺跡　19．村北遺跡　20．村東・矢島前遺跡　21．山島・天神遺跡　22．天神久保遺跡　23．万福寺遺跡　24．矢島町薬師遺跡　25．矢島竹之内遺跡　26．矢島町村西・熊殿遺跡　27．新保八坂遺跡　28．西島遺跡群（眺）

第２図　遺跡の位置

No.	遺跡名	主な時期・性格
1	上大類薬師遺跡２	本遺跡
2	上大類薬師遺跡	弥生後期土器出土
3	上大類北芒地遺跡	弥生後期住居跡、弥生後期～古墳前期方形周溝墓、古墳中期末～後期住居跡、平安溝、石製模造品の出土あり
4	貝沢御町遺跡	方形周溝墓、墨書土器、平安住居跡
5	聖光山古墳	古墳紀末～6世紀初頭古墳
6	上大類野地田遺跡	B水田、B水田以前の水路・堰
7	上大類原平堀遺跡	B水田
8	上大類八反田遺跡	B水田
9	貝沢荻塚遺跡	B水田
10	五聖神社古墳	銅鏡出土
11	貝沢上遺跡	祭祀（石製模造品集積）
12	日光町遺跡	B水田
13	福荷町Ⅱ遺跡	弥生・古墳住居跡
14	日光町林製作所遺跡	弥生時代中期～後期の遺出土
15	福荷町Ⅰ遺跡	弥生時代中期住居跡、古墳時代住居跡
16	貝沢天神遺跡	弥生時代中期・古墳時代住居跡、B水田

No.	遺跡名	主な時期・性格
17	天田・川押遺跡	縄文時代中・後期遺物、平安時代集落・B水田・土壙墓
18	宿大駒町村西遺跡	縄文前期住居状遺構、弥生時代後期集落、古墳時代前期周溝墓・中期集落、奈良平安時代集落
19	村北遺跡	B水田
20	村東・矢島前遺跡	平安時代住居跡・B水田
21	山鳥・天神遺跡	縄文時代前期包含層、平安時代掘立柱建物跡群・B水田・土壙墓
22	天神久保遺跡	平安時代住居跡・B水田
23	方相寺遺跡	縄文時代後期集落（敷石住居あり）、弥生時代後期集落、古墳時代前期住居跡・後期古墳、奈良平安時代集落・B水田
24	矢島町薬師遺跡	弥生時代後期集落、古墳時代後期集落、薬師山古墳周溝
25	矢島竹之内遺跡	弥生時代中期～後期集落、古墳時代前期周溝墓、平安時代集落・B水田
26	矢島町村西・堀殿遺跡	縄文時代集落、古墳時代集落、平安時代集落
27	新保八坂遺跡	平安時代道路状遺構、B水田
28	西島遺跡群（鍛）	平安時代集落・B水田

第１表　周辺遺跡一覧表

Ⅲ　調査の方法と経過

１　調査の方法

表土をバックホーを用いて行ったところ、調査区を北西－南東方向へ横切るＳＤ－１を確認した。ＳＤ－１は埋没土の状況からＡｓ－Ａ降下（天明３年：1783年）以降に帰属する遺構と判断できたため、同遺構の埋没土に関しては、重機で掘り下げた。また、ＳＤ－１を掘り下げつつ、同溝の壁面を観察したところ、本遺跡においては、３面の調査が必要であると判断した。なお、１面目はⅥ層（平安時代の耕作土）上面の畠跡、２面目は度重なる畠の耕作により形成された平安時代の遺物包含層（Ⅵ層）、３面目はⅥ層の下で平安時代以前の遺構面と捉えた。１面目の調査は、ジョレンを用いて遺構確認を行い、確認された畠跡を移植ゴテで工具痕等の有無を探りながら慎重に掘り下げた。２面目以降の調査では、調査区が約22㎡と狭小なことから、土層観察用のベルトを調査区中央に設置し、移植ゴテで遺構のプランが確定するまで全体的に掘り下げた。遺構プラン確定後は、重複関係を捉え、時期の新しい遺構から随時移植ゴテを用いて検出した。

遺構の測量は、平・断面図をトータルステーションを用いて行った。写真撮影は、35㎜白黒ネガフィルム・35㎜カラーリバーサルフィルムのほか1,000万画素相当のデジタルカメラを使用した。

報告書作成作業は遺構・遺物トレース、写真加工、版組をAdobe IllustratorCS2・Adobe PhotoshopCS2・Adobe InDesignCS2を使用して行った。遺物の写真撮影は、センサーサイズAPS-Cのものを使用した（Nikon D7000）。

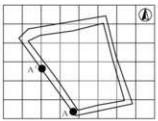
２　調査の経過概要

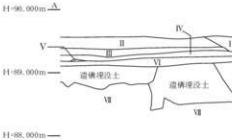
10月16・17日：基準点設置。発掘器材・簡易トイレの搬入。**10月18日**：重機による表土除去を開始し、同日中に終了。**10月24日**：発掘補助員動員。遺構確認作業に着手・終了後遺構検出作業に移行。**10月26日**：１面目（Ａｓ－Ｂ混土直下面）の調査を終了し、２面目（平安時代包含層）の調査に移行する。**10月27日**：２面目の調査を終え、３面目（平安時代以前の遺構確認面）の調査に着手。**11月２日**：３面目の検出作業を終了し、全景写真撮影を行う。**11月４日**：遺構測量を終了する。**11月６日**：発掘器材の撤収。**11月７日**：高崎市教育委員会による現場終了確認。重機による埋め戻しを行い、同日中に終了。**11月９日**：簡易トイレを撤収し、現地での作業を終了する。

Ⅳ　基本層序（第３図／ＰＬ．３）

本遺跡は井野川右岸に位置し、同河川の自然堤防上に立地している。現地形は遺跡の東側は法面となっており、井野川方面へ向けて急激に下がる傾斜となるが、自然堤防は井野川方面へさらに延びていたものと考えられる。基本層序はⅠ層が現代の攪乱、Ⅱ層が現耕作土、Ⅲ層が旧耕作土、Ⅳ層がＡｓ－Ｂ（天仁元年：1108 年降下）混土（畠の耕作土）、Ⅴ層がＡｓ－Ｂ一次堆積層、Ⅵ層が平安時代の遺物包含層（耕作土）、Ⅶ層が井野川泥流堆積物と捉えている。なお、Ⅵ層とⅦ層の間には、縄文時代早期から平安時代にかけての基本層序が存在するはずであるが、本調査区における遺構占有率が 100%であったため、この間の基本層序は遺構構築時に失われたものと判断される。

調査は３面に分けて行っており、１面目はⅣ層直下、２面目は遺物包含層（Ⅵ層）の調査、３面目はⅥ層以下の調査とした。





基本層序

Ⅰ．暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5 cm少量、小砂利中量、Ａｓ－Ｂφ0.2 cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。現代の攪乱。
Ⅱ．暗褐色土　現表土。Ａｓ－Ａφ0.5 cm・小礫φ0.5～2.0 cm少量含む。しまり弱。粘性ややあり。現耕作土。
Ⅲ．暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5 cm・Ａｓ－Ｂφ0.2 cm少量、焼土・炭化粒微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
Ⅳ．褐灰色土　Ａｓ－Ｂφ0.2 cm多量、焼土・炭化粒微量含む。しまりやや強。粘性弱。
Ⅴ．Ａｓ－Ｂ一次堆積層。
Ⅵ．黒褐色土　焼土・炭化粒少量、Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5 cm・ロームブロックφ0.5～1.0 cm微量含む。しまりあり。粘性あり。平安時代の耕作土。
Ⅶ．井野川泥流堆積物層。

第３図　基本層序

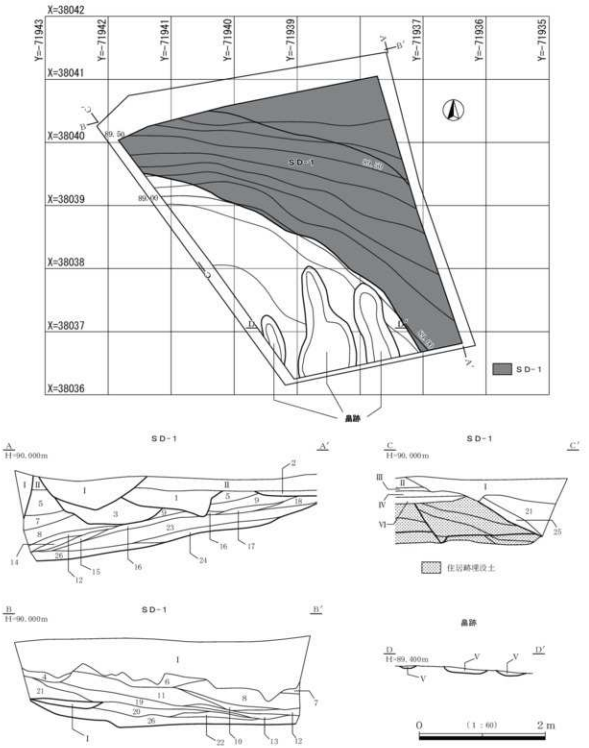
Ⅴ　遺構と遺物

１　１面目

①　１面目の概要（第４図／ＰＬ．１）

１面目の調査では、調査区の約半分を北西一南東方向へ走行する近世以降の溝（ＳＤ－１）１条、Ａｓ－Ｂ一次堆積層で埋没する平安時代の畠跡（溝３条）を確認した。

近世以降の溝であるＳＤ－１は埋没土中にＡｓ－Ａ（天明３年:1783 年降下）の混入が見られることから、同軽石降下以降に帰属するものである。ＳＤ－１の検出は調査区の関係上、落ち込みの一部を検出したに留まっており全体像は捉えられていない。このため、本報告では溝としての認識を示したが、地形をカットした可能性も十分考えられるものと言えよう。畠跡は、当初溝と判断していたが、状況的にＡｓ－Ｂ一次堆積層で埋没する３条の溝が並列し、等間隔に配置されていることから畠跡と判断するに至った。なお、検出時には埋没するＡｓ－Ｂ一次堆積層を丁寧に除去したものの、工具痕を捉えることはできなかった。このため、畠の耕作からＡｓ－Ｂの降下までには、風化現象が進行する時間が存在したものと推測できよう。



ＳＤ－１土層説明

1．暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm少量,Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
2．褐灰色土　鉄分多量,Ａｓ－Ａφ0.5cm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
3．暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm・小礫φ0.5～1.0cm少量,Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
4．暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm・ローム ブロックφ0.5cm少量,Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
5．暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm少量,Ａｓ－Ｂφ0.2cm・炭化粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
6．暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm中量,Ａｓ－Ｂφ0.2cm・炭化粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
7．暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm少量,ローム ブロックφ0.5cm・炭化粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
8．暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm中量,Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
9．暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
10．褐灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm・ローム ブロックφ0.5cm少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
11．暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm中量,Ａｓ－Ｂφ0.2cm・炭化粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
12．暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm少量,Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
13．褐灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm少量,Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。

第４図　１面目全体図・ＳＤ－１・畠跡断面図

ＳＤ－１土層説明

14. 暗灰色土　砂粒少量，Ａｓ－Ａφ0.5cm微量含む。しまりややあり。粘性弱。
15. 褐灰色土　砂粒中量，Ａｓ－Ａφ0.5cm微量含む。しまりややあり。粘性弱。
16. 灰黄褐色土　砂粒中量，ロームブロックφ0.5cm少量，Ａｓ－Ａφ0.5cm微量含む。しまりややあり。粘性弱。
17. 暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm少量，ロームブロックφ0.5cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
18. 暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
19. 暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm・ロームブロックφ0.5cm少量，Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
20. 暗褐色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm少量，Ａｓ－Ｂφ0.2cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
21. 暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm少量，Ａｓ－Ｂφ0.2cm・焼土・炭化粒微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
22. 暗褐色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm少量，焼土・炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
23. 暗灰色土　砂粒・小礫φ0.5～3.0cm少量，Ａｓ－Ａφ0.5cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
24. 暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
25. 暗灰色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm少量，Ａｓ－Ｂφ0.2cm・ロームブロックφ0.5cm微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
26. 暗褐色土　Ａｓ－Ａφ0.5cm・ロームブロックφ0.5～5.0cm少量，焼土・炭化粒微量含む。しまりあり。粘性ややあり。

第５図　ＳＤ－１断面図（土層説明）

②　溝

ＳＤ－１（第４・５図／ＰＬ．１）

位置：Ｘ：38037 ～ 38042、Ｙ：-71937 ～ -71942 グリッド。**主軸方位**：Ｎ-72°－Ｗ。**重複**：ＳＩ－２・３、ＳＫ－３・４、Ｐ－１と重複し、埋没土と出土遺物の観察から本溝は重複するすべての遺構より新しい。**規模**：上端幅（2.81）ｍ、下端幅（1.21）ｍ。**残存深度**：1.13ｍ。**断面形態**：逆台形状と想定される。**底面の状態**：比較的なだらかで、北西から南東へ向けて標高が低くなる。**遺構埋没状態**：Ａｓ－Ａ・Ａｓ－Ｂ・砂粒・小礫焼土・炭化粒・ロームブロックを含む暗灰色を主体とした土による人為埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中から弥生時代後期から近代にかけての土器・陶器片等が散在して出土している。**時期**：出土遺物から近代と想定される。**備考**：本報告では溝としたが、調査区が狭小なため、人工的に地形をカットしたものの可能性も考えられる。

③　畠跡（畝間の溝）（第４図／ＰＬ．１）

位置：Ｘ：38037 ～ 38039、Ｙ：-71938 ～ -71940 グリッド。**主軸方位**：Ｎ-15°－Ｗ。**重複**：重複は見られない。本畠跡はさらに東へ延びると推測されるが、近代の溝と判断されるＳＤ－１により消失した可能性がある。**規模**：上端幅 0.92 ｍ～ 0.25 ｍ、下端幅 0.72 ｍ～ 0.12 ｍ。**残存深度**：0.09 ｍ。**断面形態**：各畝間の溝とも皿状を呈する。**底面の状態**：比較的なだらかで、顕著な高低差は見られない。**遺構埋没状態**：Ａｓ－Ｂ一次堆積層による自然埋没。**遺物出土状態**：遺物の出土は見られない。**時期**：1108 年（天仁元年：平安時代末期）。

２　２面目

遺物包含層（第３図／ＰＬ．３）

２面目の遺物包含層は基本層序のⅥ層に相当し、同層から弥生時代後期から平安時代の土器片が多量に出土した。遺物包含層の生成は、土壌の状態や出土遺物が細かく破砕される状態であったことから、畠の耕作によるものと考えられる。なお、破砕された土器の角は丸みを帯び、風化が顕著であることから、畠の耕作は、複数回にわたるものと推測される。遺物包含層の生成機関は、下位から９世紀前半に帰属する竪穴住居跡が検出された状況から、同竪穴住居跡の時期からＡｓ－Ｂ降下前の概ね 200 年間と判断される。

3　3面目

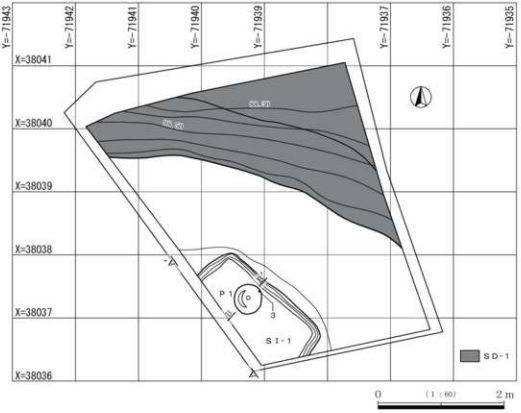
①　3面目の概要（第６・８・９図／ＰＬ．１・２）

３面目の調査では、竪穴住居跡４軒（ＳＩ－１～４）・土坑４基（ＳＫ－１～４）・ピット２基（Ｐ－１・２）を検出した。竪穴住居跡の調査では、床面直上からの出土遺物が少なく、明確に時期決定をできたのは９世紀前半に比定されるＳＩ－２のみである。

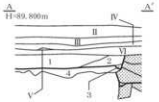
②竪穴住居跡

ＳＩ－１（第６・７図／第２表／ＰＬ．２・４）

位置：X =38039 ～ 38037、Y =-71939 ～ -71941。**主軸方位**：Ｎ -49°－Ｗ。**重複**：ＳＩ－２・４、ＳＫ－２、Ｐ－２と重複し、埋没土と出土遺物の観察から本住居跡はＳＩ－２・４、ＳＫ－２より新しい。Ｐ－２との新旧関係は不明。**形状**：残存部分から方形状ないし長方形状を呈するものと想定される。**規模**：2.15 m×（1.07）m。**残存深度**:0.22 m。**床面の状態**:平坦である。**カマド**:検出範囲内においては、確認されなかった。**貯蔵穴**：検出範囲内においては、確認されなかった。**柱穴**：検出範囲内において１基のピット（Ｐ１）が確認されているが、柱痕は見られない。Ｐ－１の規模は平面0.47 m×0.43 m、深さ0.29 mを測り、ロームブロックを含む暗褐色を主体とした土で埋没している。**貼床**：ロームブロックを含む黒褐色を主体とした土で構築している。**遺構埋没状態**：ロームブロック・Ｈｒ－ＦＡ軽石・焼土・炭化粒を含む黒褐色土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**:埋没土中より須恵器・灰釉陶器片が散在する状態で少量出土している。Ｐ１から石製模造品（３）が出土しているが、他時期のものと考えられる。**時期**:10 世紀後半と想定される。

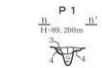


第６図　３面目全体図①（ＳＩ－１平面図）



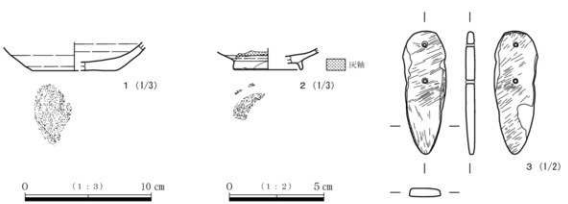
ＳＩ－１土層説明

1．黒褐色土　Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5cm・ローム ブロックφ0.5cm少量。地土・炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。
2．黒褐色土　ローム ブロックφ0.5cm中量,Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5cm・地土少量。炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。
3．黒褐色土　ローム ブロックφ0.5～2.0cm中量,Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5cm・地土微量含む。しまりあり。粘性あり。
4．黒褐色土　ローム ブロックφ0.5～3.0cm中量,Ｈｒ－ＦＡ軽石φ0.5cm・炭化粒微量含む。しまりやや強。粘性あり。貼床。



ＳＩ－１Ｐ１土層説明

1．暗褐色土　ローム ブロックφ0.5cm少量含む。しまりややあり。粘性あり。
2．暗褐色土　ローム ブロックφ0.5cm中量含む。しまりややあり。粘性あり。
3．暗褐色土　ローム ブロックφ0.5cm少量含む。しまりあり。粘性あり。
4．暗褐色土　ローム ブロックφ0.5～3.0cm中量含む。しまりあり。粘性あり。



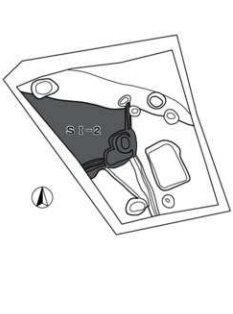
第７図　ＳＩ－１断面図・出土遺物実測図

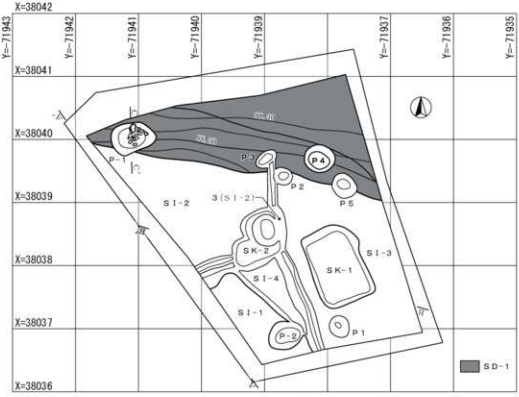
遺物No.	器種	①焼成②色調③胎土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	須恵器 坏	①酸化炎気味②黒褐③白色粒・石英・黒色紅斑④体部～底部1/5	口径：－ 底径：(6.6) 器高：(2.2)	外面：轆轤整形、底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	S101
2	灰釉陶器 椀	①酸化②灰白③白色粒④体部～底部1/7	口径：－ 底径：(5.5) 器高：(1.7)	外面：轆轤整形、底部高台貼付後回転ナデ。釉漬け掛け。 内面：轆轤整形。	S101
遺物No.	器種	法量（cm・g）、成・整形技法の特徴			注記・備考
3	剥形 石製模造品	長さ：6.5　幅：2.3　厚さ：0.4　重さ：13.21　滑石製。			S101 No.1

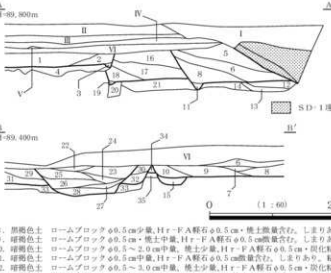
第２表　ＳＩ－１出土遺物観察表

ＳＩ－２（第８～11図／第３表／ＰＬ．２～４）

位置：Ｘ =38038 ～ 38040、Ｙ =-71939 ～ -71942。**主軸方位**：Ｎ -89°－Ｅ。**重複**：ＳＩ－１・３・４、ＳＫ－２、ＳＤ－１、Ｐ－１と重複し、埋没土と出土遺物の観察から本住居跡はＳＩ－３・４、ＳＫ－２、Ｐ－１より新しく、ＳＩ－１より古い。なお、Ａ―Ａ′断面におい名称を振れなかった住居跡との重複が見られ、本住居跡が重複する住居跡より新しい。**形状**：残存部分から方形状ないし長方形状を呈するものと想定される。**規模**：〈2.60〉m ×〈2.01〉m。**残存深度**：0.62 m。**床面の状態**：平坦である。**カマド**：検出範囲内においては、確認されなかったが貯蔵穴との位置関係から東壁に付設されていたものと推測される。**貯蔵穴**：



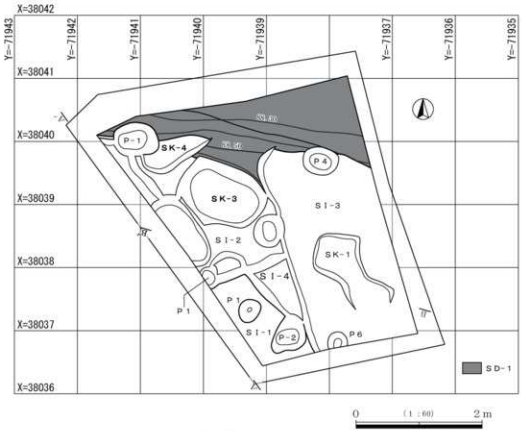




S I-1・2・3・4、SK-1・2土層説明

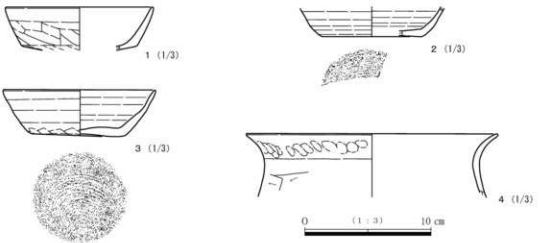
1. 黒褐色土　Hr-FA軽石φ0.5cm・ロームブロックφ0.5cm少量、焼土・炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。S I-1埋設土。
2. 黒褐色土　ロームブロックφ0.5cm中量、Hr-FA軽石φ0.5cm・焼土少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。S I-1埋設土。
3. 黒褐色土　ロームブロックφ0.5～2.0cm中量、Hr-FA軽石φ0.5cm・焼土微量含む。しまりあり。粘性あり。S I-1埋設土。
4. 黒褐色土　ロームブロックφ0.5～3.0cm中量、Hr-FA軽石φ0.5cm・炭化粒微量含む。しまりやや強。粘性あり。貼床。S I-1埋設土。
5. 暗褐色土　Hr-FA軽石φ0.5cm・ロームブロックφ0.5cm・焼土・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性あり。S I-1埋設土。
6. 暗褐色土　Hr-FA軽石φ0.5cm・ロームブロックφ0.5～1.0cm・焼土少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。S I-2埋設土。
7. 黒褐色土　ロームブロックφ0.5～1.0cm・焼土少量、Hr-FA軽石φ0.5cm微量含む。しまりあり。粘性あり。S I-2埋設土。
8. 黒褐色土　ロームブロックφ0.5cm少量、Hr-FA軽石φ0.5cm・焼土微量含む。しまりあり。粘性あり。S I-2埋設土。
9. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5cm・焼土中量、Hr-FA軽石φ0.5cm微量含む。しまりあり。粘性あり。S I-2埋設土。
10. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5～2.0cm中量、焼土少量、Hr-FA軽石φ0.5cm・炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。S I-2埋設土。
11. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5cm中量、Hr-FA軽石φ0.5cm微量含む。しまりあり。粘性あり。S I-2埋設土。
12. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5～3.0cm中量、焼土少量、Hr-FA軽石φ0.5cm・炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。S I-2埋設土。
13. 暗褐色土　炭化粒多量、ロームブロックφ0.5～1.0cm中量、焼土・炭少量含む。しまりあり。粘性あり。S I-2埋設土。
14. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5～5.0cm多量、焼土少量、Hr-FA軽石φ0.5cm・炭化粒微量含む。しまりやや強。粘性あり。S I-2埋設土。
15. 黒褐色土　ロームブロックφ0.5～2.0cm・焼土少量、Hr-FA軽石φ0.5cm微量含む。しまりあり。粘性あり。SK-2埋設土。
16. 黒褐色土　Hr-FA軽石φ0.5cm・焼土少量、ロームブロックφ0.5cm・炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。住居跡埋設土。
17. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5cm・炭化粒少量、Hr-FA軽石φ0.5cm・焼土微量含む。しまりあり。粘性あり。住居跡埋設土。
18. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5～2.0cm中量、焼土微量含む。しまりあり。粘性あり。住居跡埋設土。
19. 黒褐色土　ロームブロックφ0.5cm中量、Hr-FA軽石φ0.5cm・焼土・炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。住居跡埋設土。
20. 黒褐色土　ロームブロックφ0.5～5.0cm中量、Hr-FA軽石φ0.5cm微量含む。しまりあり。粘性あり。住居跡埋設土。
21. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5～4.0cm多量、Hr-FA軽石φ0.5cm・焼土・炭化粒微量含む。しまりやや強。粘性あり。住居跡埋設土。
22. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5～1.0cm中量、焼土・炭化粒少量、Hr-FA軽石φ0.5cm微量含む。しまりあり。粘性あり。SK-1埋設土。
23. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5cm多量、焼土少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。SK-1埋設土。
24. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5～1.0cm中量、焼土微量含む。しまりあり。粘性あり。SK-1埋設土。
25. 黒褐色土　ロームブロックφ0.5～2.0cm少量、焼土・炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。SK-1埋設土。
26. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5～3.0cm中量、焼土少量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。SK-1埋設土。
27. 黒褐色土　ロームブロックφ0.5～2.0cm中量、炭化粒少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性あり。SK-1埋設土。
28. 黒褐色土　ロームブロックφ0.5～3.0cm多量、焼土微量含む。しまりあり。粘性あり。SK-1埋設土。
29. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5～3.0cm中量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。S I-3埋設土。
30. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5cm少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性あり。S I-3埋設土。
31. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5～1.0cm少量、焼土微量含む。しまりあり。粘性あり。S I-3埋設土。
32. 暗褐色土　ロームブロックφ0.5～5.0cm多量、焼土少量含む。しまりあり。粘性あり。S I-3埋設土。
33. 黒褐色土　ロームブロックφ0.5～10.0cm多量含む。しまりやや強。粘性あり。貼床。S I-3埋設土。
34. 黒褐色土　ロームブロックφ0.5～1.0cm少量含む。しまりあり。粘性あり。S I-4埋設土。
35. 黒褐色土　ロームブロックφ0.5～3.0cm中量含む。しまりやや強。粘性あり。貼床。S I-4埋設土。

第８図　３面目全体図②（ＳＩ－１～４・ＳＫ－１・２・Ｐ－１平・断面図）

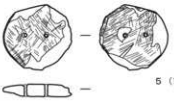


第９図　３面目全体図③（ＳＩ－１～４掘り方・ＳＫ－３・４）

住居跡南東コーナーにおいて確認されている。規模は平面 0.73 m× 0.61 m、深さ 0.36 mを測り、しまりが弱くローム ブロック・Ｈｒ－ＦＡ・焼土・炭化粒を含む黒褐色を主体とした土で埋没している。**柱穴**：検出範囲内においては、確認されなかった。**貼床**：ローム ブロック・Ｈｒ－ＦＡ軽石・焼土・炭化粒を含む黒褐色を主体とした土で構築している。**遺構埋没状態**：ローム ブロック・Ｈｒ－ＦＡ軽石・焼土・炭化粒を含む暗褐色土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中より土師器・須恵器片が散在する状態で出土している。貯蔵穴上端部から良好な状態の須恵器坏（３）が出土している。また、鏡形石製模造品（５）の出土がみられるが、他時期のものと考えられる。**時期**：８世紀末と想定される。



第 10 図　ＳＩ－２出土遺物実測図①



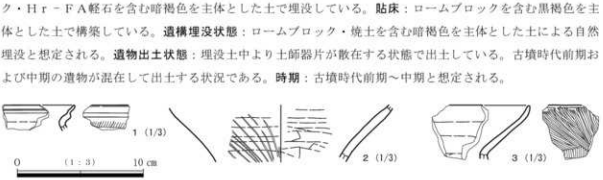
第11図　ＳＩ－２出土遺物実測図②

遺物No.	器種	①焼成②色調③胎土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	土師器 坏	①酸化焔②にぶい黄橙③白色粒・チャート・片岩・雲母・黒色鉱物④口縁部～底部1/5	口径：(11.8) 底径：(9.2) 器高：(3.4)	外面：口縁部横ナデ。体部上位斜ナデ。体部下位斜ケズリ。底部斜ナデ。 内面：横ナデ	S102
2	須恵器 坏	①還元焔②灰白③白色粒・チャート④体部～底部1/5	口径：－ 底径：(8.0) 器高：(2.4)	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	S102
3	須恵器 坏	①還元焔②黄灰③白色粒・石英・チャート④口縁部～底部2/3	口径：12.1 底径：7.4 器高：3.7	外面：轆轤整形。底部回転糸切り後端部部ナデ。 内面：轆轤整形。	S102 No.1
4	土師器 甕	①酸化焔②明赤褐③白色粒・黒色粒・チャート・片岩・黒色鉱物④口縁部～胴部上位1/4	口径：(20.2) 底径：－ 器高：(5.0)	外面：口縁部横ナデ後指押え。胴部斜ケズリ。 内面：横ナデ。	S102・S102 貯穴
遺物No.	器種	法量（cm・g）、成・整形技法の特徴			注記・備考
5	観形 石製模造品	長さ：3.45　幅：3.65　厚さ：0.65　重さ：14.01　滑石製。			S102
6	不明石製品	長さ：3.7　幅：3.8　厚さ：1.4　重さ：25.62　安山岩製。表面に摩耗が認められる。			S102

第３表　ＳＩ－２出土遺物観察表

ＳＩ－３（第８・９・12／第４表／ＰＬ．３・４）

位置：Ｘ=38037～38040、Ｙ=-71937～-71940。**主軸方位**：Ｎ-18°－Ｗ。**重複**：ＳＩ－１・２・４、ＳＫ－１・２、ＳＤ－１と重複し、埋没土と出土遺物の観察から本住居跡はＳＩ－４より新しく、ＳＩ－１・２、ＳＫ－１・２、ＳＤ－１より古い。重複する全ての遺構より古い。**形状**：残存部分から方形状ないし長方形状を呈するものと想定される。**規模**：〈3.29〉ｍ×〈1.86〉ｍ。**残存深度**：0.29 m。**床面の状態**：平坦である。**炉跡**：検出範囲内においては、確認されなかった。**貯蔵穴**：検出範囲内においては、確認されなかった。**柱穴**：検出範囲内において５基のピット（Ｐ１～Ｐ５）が確認されているが、柱痕は見られない。各ピットの規模は、Ｐ－１が平面0.36 m×0.30 m、深さ0.15 m、Ｐ－２が平面0.31 m×0.26 m、深さ0.15 m、Ｐ－３が平面0.38 m×0.22 m、深さ0.08 m、Ｐ－４が平面0.49 m×0.44 m、深さ0.47 m、Ｐ５が平面0.40 m×0.35 m、深さ0.17 mを測り、ロームブロック・Ｈｒ－ＦＡ軽石を含む暗褐色を主体とした土で埋没している。**貼床**：ロームブロックを含む黒褐色を主体とした土で構築している。**遺構埋没状態**：ロームブロック・焼土を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中より土師器片が散在する状態で出土している。古墳時代前期および中期の遺物が混在して出土する状況である。**時期**：古墳時代前期～中期と想定される。

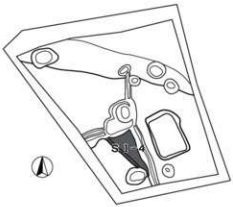


第12図　ＳＩ－３出土遺物実測図

遺物No.	器種	①焼成②色調③胎土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	土師器 甕	①酸化焔②に ぶい黄橙③白色粒・黒色粒・チャート④口縁部片	口径：－ 底径：－ 器高：(2.0)	外面：口縁部横ナデ、胴部刷毛目。 内面：口縁部横ナデ、胴部指ナデ。	S103 台付甕と推測される
2	土師器 坏	①酸化焔②橙③白色粒・黒色粒物④口縁部～体部片 1/8	口径：－ 底径：－ 器高：(4.5)	外面：横ナデ後ミガキ。 内面：強ナデ。	S103
3	土師器 小型壺	①酸化焔②に ぶい橙③白色粒・石英・黒色粒物④口縁部～胴部上位片	口径：－ 底径：－ 器高：(4.3)	外面：ミガキ。 内面：口縁部横ナデ、胴部強ナデ。	S103

第４表　ＳＩ－３出土遺物観察表

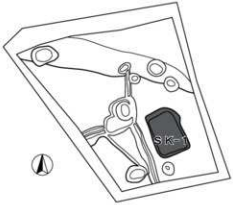
ＳＩ－４（第８・９図／ＰＬ．２・３）



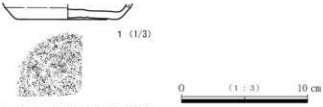
位置：Ｘ＝38037 ～ 38039、Ｙ＝-71939 ～ -71940。**主軸方位**：Ｎ-47°－Ｗ。**重複**：ＳＩ－１・３、ＳＫ－２、Ｐ－２と重複し、埋没土の観察から本住居跡は重複する全ての遺構より古い。**形状**：残存部分から方形状ないし長方形状を呈するものと想定される。**規模**：(0.97) ｍ×（0.63）ｍ。**残存深度**：0.07 ｍ。**床面の状態**：平坦である。**炉跡・カマド**：検出範囲内においては、確認されなかった。**貯蔵穴**：検出範囲内においては、確認されなかった。**柱穴**:検出範囲内においては、確認されなかった。**貼床**:ロームブロックを含む黒褐色を主体とした土で構築している。**遺構埋没状態**：ロームブロックを含む黒褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中より古墳時代前期の土師器片が散在する状態で出土している。**時期**：遺構の切り合い関係と埋没土中にＨｒ－ＦＡの軽石が混入しない状況および出土遺物から古墳時代前期に帰属するものと想定される。

③土坑

ＳＫ－１（第８・13 図／第５表／ＰＬ．１・４）



位置：Ｘ＝38038 ～ 38039、Ｙ＝-71937 ～ -71938。**重複**：ＳＩ－３と重複し、埋没土の観察から本遺構はＳＩ－３より新しい。**形状**:隅丸長方形状を呈する。**規模**:1.27 ｍ×0.97 ｍ。**残存深度**:0.47 ｍ。**遺構埋没状態**：ロームブロック・焼土・炭化粒を含む暗褐色を主体とした土による自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中より古墳時代前期～平安時代の土師器片が散在する状態で出土している。**時期**：遺構の切り合い関係と出土遺物から８世紀代に帰属するものと想定される。



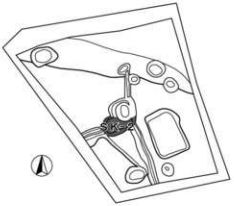
第 13 図　ＳＫ－１出土遺物実測図

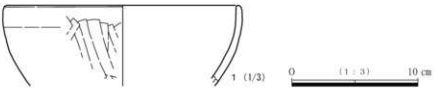
遺物No.	器種	①焼成②色調③胎土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	須恵器 坏	①還元焔②灰③白色粒・チャート・黒色粒物④体部下端～底部 1/4	口径： 底径：(8.2) 器高：(1.3)	外面：轆轤整形。底部糸ナデ。 内面：轆轤整形。	S001

第５表　ＳＫ－１出土遺物観察表

ＳＫ－２（第８・14図／第６表／ＰＬ．１・４）

位置：Ｘ=38038 ～ 38039、Ｙ=-71939 ～ -71940。**重複**：ＳＩ－１・２・３・４と重複し、埋没土と出土遺物の観察から本遺構はＳＩ－３・４より新しく、ＳＩ－１・２より古い。**形状**：不整楕円形状を呈する。**規模**：0.86 m × 0.53 m。**残存深度**：0.12 m。**遺構埋没状態**：ロームブロック・Ｈｒ－ＦＡ・焼土を含む黒褐色を主体とした土による埋没。**遺物出土状態**：埋没土中より古墳時代後期の土師器片が散在する状態で出土している。**時期**：出土遺物から古墳時代後期と想定される。





第14図　ＳＫ－２出土遺物実測図

遺物No.	器種	①焼成②色調③胎土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	土師器 鉢	①酸化焔②にぶい橙③白色粘・石英・チャート・黒色鉱物④口縁部～体部 1/8	口径：(18.4) 底径：－ 器高：(6.4)	外面：口縁部横ナデ。体部斜ナデ。 内面：横ナデ。	SK02

第６表　ＳＫ－２出土遺物観察表

ＳＫ－３（第９・15図／第７表／ＰＬ．２・４）

位置：Ｘ=38039 ～ 38040、Ｙ=-71940 ～ -71941。**重複**：ＳＩ－２、ＳＤ－１と重複し、埋没土と出土遺物の観察から本遺構は重複する全ての遺構より古い。**形状**：不整楕円形状を呈する。**規模**：1.38 m × 1.02 m。**残存深度**：0.16 m。**遺構埋没状態**：ロームブロック・Ｈｒ－ＦＡ・焼土を含む暗褐色を主体とした土による埋没。**遺物出土状態**：埋没土中より奈良時代の土師器片が散在する状態で出土している。**時期**：出土遺物から８世紀後半と想定される。

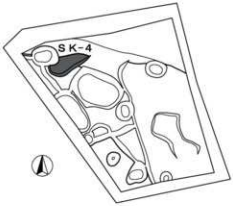
第15図　ＳＫ－３出土遺物実測図

遺物No.	器種	①焼成②色調③胎土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	土師器 坏	①酸化焔②にぶい橙③白色粘・チャート・雲母④口縁部～体部 1/8	口径：(15.0) 底径：－ 器高：(3.1)	外面：口縁部横ナデ。体部斜ナデ。 内面：横ナデ後放射状暗文。	SK03

第７表　ＳＫ－３出土遺物観察表

ＳＫ－４（第９図／ＰＬ．２）

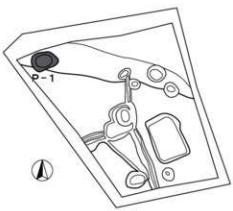
位置：Ｘ =38040 ～ 38041、Ｙ =-71940 ～ -71941。**重複**：ＳＩ－２、ＳＤ－１、Ｐ－１と重複し、埋没土の観察から本遺構は重複する全ての遺構より古い。**形状**：楕円形状を呈するものと推測される。**規模**：1.10 m × 0.50 m。**残存深度**：0.24 m。**遺構埋没状態**：ロームブロック・白色粘土・焼土を含む暗褐色を主体とした土による埋没。**遺物出土状態**：遺物の出土は見られなかった。**時期**：古墳時代後期以前と想定される。

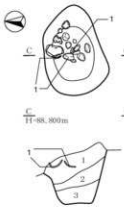


④ピット

Ｐ－１（第８・16図／第８表／ＰＬ．３・４）

位置：Ｘ =38040 ～ 38041、Ｙ =-71941 ～ -71942。**重複**：ＳＩ－２、ＳＫ－４、ＳＤ－１と重複し、埋没土の観察から本遺構はＳＫ－４より新しく、ＳＩ－２、ＳＤ－１より古い。**形状**：楕円形状を呈する。**規模**：0.71 m × 0.54 m。**残存深度**：0.49 m。**遺構埋没状態**：ロームブロック・焼土・炭化粒を含む黒褐色を主体とした土による埋没。**遺物出土状態**：埋没土上位から礫および古墳時代後期の土師器が集中して出土している。**時期**：６世紀中頃と想定される。





Ｐ－１土層説明

１．黒褐色土	焼土中量、ロームブロック φ0.5～5.0 cm少量・炭化粒少量含む。しまりあり。粘性あり。
２．黒褐色土	ロームブロックφ0.5～5.0 cm中量、炭化粒微量含む。しまりあり。粘性あり。
３．暗褐色土	ロームブロックφ0.5～3.0 cm多量含む。しまりあり。粘性あり。

0　（1：30）　1 m　　0　（1：3）　10 cm

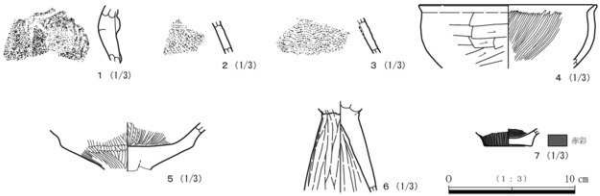
第 16 図　Ｐ－１平・断面図・出土遺物実測図

遺物No.	器種	①焼成②色調③胎土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	土師器 坏	①酸化焔②黒褐③白色粒・チャート・黒色粒④ほぼ完形	口径：12.6 底径：－ 器高：4.8	外面：口縁部横ナデ、体部～底部ナデ後体部上端部ナデ。 内面：口縁部横ナデ、体部部ナデ。	P－1・P－1 No. 2・3・6

第８表　Ｐ－１出土遺物観察表

4　遺構外出土遺物（第17図／第９表／ＰＬ．４）

遺構外出土遺物として７点の遺物を提示した。１は縄文時代中期中葉～後葉に帰属する深鉢片である。２・３は弥生時代後期に帰属するものと想定される壺片で、４～５は５世紀後半に比定され、４が坏、５・６が高坏である。７は４世紀代の土師器壺で赤彩が施されている。



第 17 図　遺構外出土遺物実測図

遺物No.	器種	①地成②色調③粘土④残存	法量	成・整形技法の特徴	注記・備考
1	縄文土器 深鉢	①不良②にぶい黄橙③白色粒・チャート・黒色鉱物④体部片	口径：－ 底径：－ 器高：－	横位・斜状の隆帯貼付後隆帯筋に半截竹歯状工具による平行沈線・隆帯頂部に縄文ヤが施される。	S102 中期
2	弥生土器 壺	①良好②にぶい橙③白色粒・石英・チャート・黒色鉱物④胴部片	口径：－ 底径：－ 器高：－	外面：櫛歯状工具による横位擬状文・単節RL縄文。 内面：ミガキ。	S103 後期～古墳前期
3	弥生土器 壺	①良好②橙③白色粒・石英・チャート・黒色鉱物④胴部片	口径：－ 底径：－ 器高：－	外面：櫛歯状工具による横位波状文。 内面：ミガキ。	S102 後期～古墳前期
4	土師器 坏	①酸化焔②にぶい橙③白色粒・石英・チャート・黒色鉱物④口縁～体部1/3	口径：(14.0) 底径：－ 器高：(5.2)	外面：口縁部横ナデ。体部撫ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部ミガキ。	S102 貯穴
5	土師器 高坏	①酸化焔②にぶい橙③白色粒・チャート・黒色鉱物④体部1/3	口径：－ 底径：－ 器高：(3.9)	外面：ミガキ。 内面：ミガキ。	包含層
6	土師器 高坏	①酸化焔②にぶい橙③白色粒・チャート・黒色鉱物④脚部1/3	口径：－ 底径：－ 器高：(7.2)	外面：撫ナデ。 内面：撫ナデ。	S102
7	土師器 壺	①酸化焔②にぶい赤橙③白色粒・石英・黒色鉱物④胴部下端～底部	口径：－ 底径：3.8 器高：－	外面：ミガキ。赤彩。 内面：ミガキ。赤彩。	包含層

第 9 表　遺構外出土遺物観察表

Ⅵ　まとめ

今回の調査は、調査区が約 22 ㎡と狭小なため得られた情報は少ないものの、土地利用の変遷を僅かながら捉えることができた。本遺跡において住居跡の存在が確認できたのは、古墳時代前期からであるが、遺構外出土の遺物を観ると弥生時代後期に比定される樽式土器も確認できることから、該期まで集落形成は遡る可能性を含むと言える。しかしながら、近隣遺跡の上大類北宅地遺跡や貝沢柳町遺跡では方形周溝墓が検出される例もあるため、当然ながら集落域ではなく墓域であった可能性も想定しておくべきと言える。

古墳時代前期以降は、遺構の在り方から 10 世紀後半までは、集落域として機能していたものと推測され、この間の遺構から出土する土器は、比較的風化を免れる様相を持つ。土器の風化は、水の流れに巻き込まれる状況や後世の土壌撹拌による破砕を連想させるものであるため、提示した期間は、土器の風化が促進される状況下にはなかったと言える。これに対し、遺物包含層とした基本層序Ⅵ層から出土した土器は、時期的にも統一性がなく、細かく破砕され断面の風化が著しい状態であった。Ⅵ層の土壌は、洪水によってもたらされる砂粒や小礫を含まないため、風化原因は土壌撹拌による可能性が高い。土壌撹拌の原因はⅥ層上面で畝間の溝が確認されていることから、畠の耕作によるものと考えられよう。

これらの状況をまとめると、本遺跡は弥生時代後期に集落ないし墓域として機能し、古墳時代前期から 10 世紀後半までは集落域、それ以降は畠を主体とした生産域と移り替わっていたものと考えられる。

抄　録

フ リ ガ ナ	カミオオルイヤクシイセキ２
書　　名	上大類薬師遺跡２
副　書　名	切土工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 415 集
編 著 者 名	日沖剛史
編 集 機 関	有限会社毛野考古学研究所 〒 379-2146　群馬県前橋市公田町 1002 番地１　℡　027-265-1804
発 行 機 関	有限会社毛野考古学研究所
発 行 年 月 日	平成 30 年５月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
上大類薬師遺跡２	群馬県高崎市上大類町字薬師 1285 番２	102020	712	36°　20′　24″	139°　01′　54″	20171014 ～ 20171107	22 ㎡	切土工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上大類薬師遺跡２	生産域 集落跡	平安時代 古墳時代前期～ 平安時代	畠跡 住居跡・土坑・ ピット	土師器　甕・壺・坏・高坏・鉢 須恵器　坏 灰釉陶器　皿 石製品　模造品 縄文土器　深鉢 弥生土器　壺	古墳時代から平安時代にかけて集落が営まれた後生産域（畠）へと土地の利用が変遷する様相が捉えられた。

写真図版

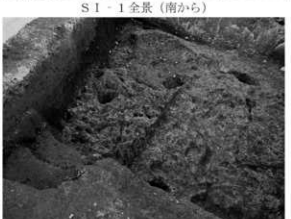
１面目全景（南東から）

３面目全景（南から）

３面目掘り方全景（南から）

ＳＩ－１全景（南から）

ＳＩ－１Ｐ１遺物出土状況（南西から）



ＳＩ－１・４掘り方全景（南東から）

ＳＩ－２全景（西から）

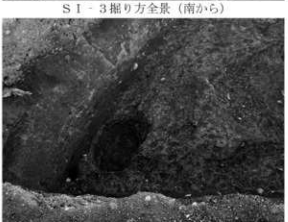
ＳＩ－２貯蔵穴遺物出土状況（西から）

ＳＩ－２掘り方全景（西から）

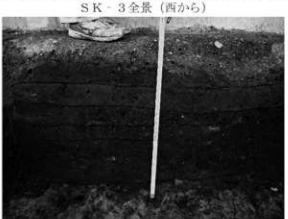
ＳＩ－３全景（南から）

ＳＩ－３掘り方全景（南から）

ＳＩ－４全景（南東から）


ＳＫ－３全景（西から）

Ｐ－１遺物出土状況（西から）


標準堆積土層（東から）

SI－01

SI－02

SI－03

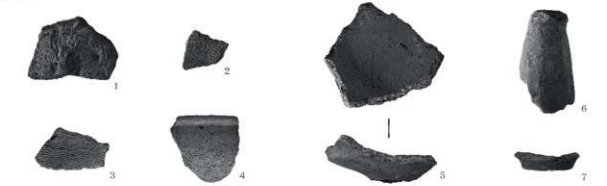
SK－01

SK－02

SK－03

P－01

遺構外



出土遺物

高崎市文化財調査報告書第 415 集

上大類薬師遺跡 2

－切土工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－

平成 30 年 5 月 28 日印刷
平成 30 年 5 月 31 日発行

編集／有限会社毛野考古学研究所
発行／有限会社毛野考古学研究所
印刷／朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社